

「柏崎の医療」担って

総合医療センター出前授業 柏崎出身の丸山医師が激励

柏崎総合医療センターでは今年も市内小中学校で「出前授業」を行っている。柏崎市の依頼を受けた出前授業で、地域の子どもたちから地域医療に関心を持ってほしいと、医師が医療現場で働くことの魅力、働きがいなどを直接語りかけている。今年度は12校（13回）を丸



山正樹医師、村井英四郎医師、津吉秀樹医師が分担して訪問、講話を行っている。

8月27日の北鱸石小（丸山医師）から始まり、

これまで五中（9月29日、丸山医師）、比角小（10月13日、村井医師）、日吉小（10月15日、津吉医師）、荒浜小（10月22日、丸山医師）、枇杷島小

（11月2日、津吉医師）でそれぞれ授業を行った。12日以降の日程は別項の通り。

このうち荒浜小では、診療部長で総合消化器内科内視鏡センター長、消化器内科部長の丸山医師（柏崎出身、柏崎高校、信州大医学部卒）が講師となり、「きみも医者になれる」病院の仕事」と題して講話を行った。

このなかで、丸山医師は医師になった理由について「幼稚園の時から体の仕組み図鑑が好きでよく見ていた。医学部に行きたいという思いを強く持ち、勉強した。患者さんと一緒に病気を乗り越え、病気が治った時はこれほどやりがいを感じることはない」とした上で「なりたいたい」と毎日思っていると、行動も変わるはずだ。（医学部の受験には、数学と英語が重要、中学時代から覚悟を決め

て勉強することだ。強い身体を持つことも重要。柏崎地域は常に医師、看護師が不足しており、皆さんから医師、看護師になつてもらわないと柏崎の医療は続かないかな。将来の医療従事者がこの中から出ることを期待します。地元出身の医師がいることは安心感にもつながる」と呼びかけた。

また、北海道胆振東部地震の際、D.M.A.T.災害派遣医療チーム）として現地に入った経験を通して「D.M.A.T.救急車に書いてある新潟、柏崎の文字を見て、すぐ駆けつけたくれたと喜んでもらった。中越沖地震のお礼として、われわれの元気を受け止めてもらえたのではないかと思う」、新型コロナウイルス感染症対策については「感染力の強いウイルスで、第6波が来るとの予想もあり、気を抜けない状況だ。うが

い、手洗い、マスクが重要だが、自分がウイルスを持っているかもしれない、と思つて行動することも必要。ワクチンについても、有効率95%の意味（接種した100人のうち5人は発症。重症化はしないが、知らないうちに人にうつす可能性もある）を正しく理解してほしい。この学校でもクラスターが発生し、大変だったと聞くが、経験を

しまいこんでしまうのではなく、糧にし、乗り越えて成長してほしい」と激励した。

参加した児童からは「丸山先生の話を聞いて、医療の仕事が大事だということを知った。医療関係にも様々な仕事、役割がありチームで動くことに興味をもつた」（6年、品田心愛さん）といった感想が寄せられた。T車両の見学会が行われた。

- 【今後の開催予定】▽11月12日 半田小（丸山医師）▽11月19日 田尻小（津吉医師）▽12月3日 西山中（津吉医師）▽12月8日 米山小（村井医師）▽12月10日 鏡が沖中（丸山医師）▽12月14日 大洲小（津吉医師）▽12月15日 田尻小（村井医師）